

住吉大社駅(南海本線)①

六道の辻から帝塚山古墳界隈を歩く

住吉公園駅・帝塚山三丁目駅(阪堺電車上町線)

住吉鳥居前駅(阪堺電車阪堺線) 帝塚山駅(南海高野線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.041 その3 No.141

南海住吉大社駅

①粉浜商店街

- 大正8年(1919)に粉浜の米屋7名が店舗を構えたことが粉浜商店街のはじまりです。月初めには商売繁盛、家内安全を願うイベント「はったつ市」を主催。
- 住吉大社参詣のおみやげ処としても賑わっています。

②六道の辻(閻魔地蔵)

- いまは7本ですが、昔は6本道だったので、いまでも「六道の辻」と呼ばれています。仏教の輪廻転生の教えでは、人が死ぬと生前の行いを閻魔王に審査されて六道(地獄・餓鬼・畜生・人間・修羅・天)に生まれ変わります。地獄に落ちた際に唯一、救済してくれるのが地蔵菩薩ですが、じつは地蔵菩薩は閻魔王の化身という説もあって、閻魔地蔵は、そうした考え方が反映されている非常にめずらしい地蔵です。



③市川家住宅(帝塚山スタジオ)

- フラメンコ舞踏研究所として活用されています。母屋の2階部分が洋館で、和洋折衷を取り入れた造りになっています。漆喰の壁と木がフラメンコに適しているそうで、土蔵をフラメンコスタジオとして再生利用しています。

④遠藤家住宅

- 帝塚山に新興住宅地が形成され始めた大正11年(1922)に、建築家であり宣教師でもあったヴォーリスが宣教師館(旧プレスビテリアンミッションハウス)として建てました。正面中央の玄関ポーチ、両側面に立つ赤レンガの煙突、広くてバランスのよい配置が、ミッション住宅の特色を示しています。国指定の登録有形文化財です。

⑤帝塚山古墳

- 4世紀末期から5世紀初頭にかけての全長約120メートルの前方後円墳です。大和朝廷に高官として仕え、この付近に居宅があった豪族・大伴金村の墓という説もありますが、定かではありません。前方後円墳として原形をとどめる市内唯一の塚です。帝塚山古墳のある住吉区一带は多くの古墳が築かれていたことが推定され、この付近にも大手塚、小手塚と呼ばれた古墳があ

ったことが確認されています。



⑥高谷家住宅

- 大正13年(1924)ごろの建築で、国指定の登録有形文化財です。銅版切妻屋根のてっぺんには風見鶏、2つの屋根窓と煙突が童話のような雰囲気をみせています。また洋風の格天井と暖炉のある和室など、和洋の調和を生かした造りとなっています。応接室は船室に見立ててつくられ、船窓のように嵌め込まれたステンドグラスはヨットの絵柄が描かれています。

阪堺帝塚山三丁目駅

